

「農村の宝」触れ合い学ぶ

東京都大環境学部(横浜市)の学生たちが1日から、山都町島木の水増集落で、住民の暮らしぶりなど実態を探る調査を実施している。3日まで滞在し、集落活性化のアイデアを提案する。

同学部の枝廣淳子教授が太陽光発電を生かした地域おこしに取り組む同集落の住民らと知り合った縁で、ゼミ生17人が訪れた。地方の農村集落で過疎・高齢化が著しくなっている現状を知り、今後の研究に生かす

山都町の水増集落

東京都市大生が滞在調査

目的。 学生たちは1日に集落の歴史や文化、暮らしぶりなどについて住民に聞き取った。2日は「水増の宝」をテーマに検討し、「きれいな空気」「夜の静けさ」「健康にいい野菜」といった意見を出し合った。農作業も体験した。3年の山本美沙さん(20)は「集落に若い人はいないが、温かく接してもらい新鮮だった。自然を生かして、都市部の人を呼び込む方法を考えたい」と話した。(臼杵大介)



水増集落の住民と農作業に取り組む東京都市大の学生たち
=山都町